



令和 4 年 10 月 26 日
海 上 保 安 庁

陸上における都市型搜索救助訓練実施 ～海上保安庁の国際緊急援助隊の未来を担う職員を育成～

海上保安庁では、国際緊急援助活動遂行に必要な基本的技術の習得及び海上保安庁における都市型搜索救助技能の維持向上を図るため、未来の国際緊急援助隊を担う機動救難士 8 名が、特殊救難隊指導のもと、横浜海上防災基地において都市型搜索救助訓練を実施します。

※都市型搜索救助とは、瓦礫の下に取り残された生存者に対する位置特定、閉鎖空間からの救出活動、生存者の容体を安定化するための応急処置を柱とする一連の救助・救急活動を指します。

1 実施日時等

実施日時：令和 4 年 10 月 30 日（日）から 11 月 2 日（水）までの間

実施場所：横浜海上保安部 横浜海上防災基地

（神奈川県横浜市中区新港 1 丁目 2 番 1 号）

参加隊員：羽田特殊救難基地隊員 16 名

航空基地機動救難士（一、二、五、七、八、九、十管区）8 名

訓練内容

10 月 30 日：倒壊の危険性がある建物の評価及び瓦礫の持ち上げ訓練

31 日：倒壊の危険性がある建物の安定化訓練

11 月 1 日：倒壊の危険性がある建物の破壊・除去訓練

2 日：補完訓練

<訓練の様子>



2 経緯

海上保安庁では、国際緊急援助隊の派遣に関する法律に基づき、海外の地域における大規模な災害の発生等に際し、関係省庁等で構成される救助チームの一員として、国際緊急援助活動を行っており、これまで計12回、のべ148名の派遣実績があります。直近では、平成29年のメキシコ地震に派遣されております。

本訓練は海上保安庁が単独で実施するものであり、地震等により生じた倒壊の危険性がある建物における被災者の救助・救急のために必要な各種救助訓練となります。